

## 地域包括ケアネットワーク No.19

## 北児島地区における地域包括ケアの現状

北児島医師会 西 崎 進

北児島医師会がカバーする地域は二次医療圏としては県南東部に属し、岡山市南西部と倉敷市南東部を含んでいますが、人口密度はあまり高くないエリアです。しかし、県南に横一線に並ぶ急性期病院のおかげで急性期医療は非常に充実しており、救急搬送で苦勞するといった経験はほとんどありません。

地域包括ケアに関しましては、岡山市および県南東部で多数のグループが各々の特徴を活かした活動をおこなっていますが、まだまだ「関係者の集まり」といった印象が強く、「包括的」な動きに発展するのはこれからであると感じられます。

具体的には、

- 岡山県および県医師会・病院協会運営の「晴れやかネット」の拡張機能である「ケアキャビネット」などのインフラ整備。
- 県南東部の二次医療圏においては「もも脳ネット連携パス」を「ケアキャビネット」上で運用して急性期→回復期→在宅→急性期の「診療情報の輪」を形成する取り組み。
- 岡山市の取り組みとしては地域包括支援センター毎の6ブロックに分け、各々において各職種代表が集まって講演会やワールドカフェを企画するという取り組み。
- 医師会、プライマリ・ケア学会、岡山県介護支援専門員協会などの団体が主催する講演会、シンポジウムなどの啓発活動。

などが当医師会員が参加している地域包括ケア活動であると思われませんが、会員各自が各々の関係する団体に参加するといった状態で、まだまだ地域包括ケアの準備段階であるといった印象です。

しかし、上記団体はいずれも数カ月毎に会議を開き、前回までの結果報告と分析により次回の行動計画を立てて徐々に、しかし着実に進化してきている実態があります。特に感じたのは岡山市の取り組みで、筆者は医療圏の関係で南区南地域に参加していますが、「市民と医療・介護職を交えたワールドカフェ」に参加した経験です。市民といっても参加しているのは民生委員、愛育委員、町内会長といった行政とは密接な関係にある方々でした。一年前に参加した時はあまりに医療・介護システムに関する知識のなさに驚き、その説明に終始し、とても「ワールドカフェ」などと言える状態ではありませんでしたが、昨年暮れに参加した時には一般参加者の知識と問題意識が格段に改善されていて、皆さんの地道な活動が少しずつ成果をあげつつあると実感しました。会場でもコメントを求められたので同様の感想を述べました。

また、在宅患者さんの情報を共有する目的で作成された「連携シート」ですが、プライマリ・ケア学会の「むすびの和」や岡山県介護支援専門員協会の「在宅連携シート」をはじめとして県内各所で独自の「連携シート」が作成、使用されています。それらが各々改訂を重ねた結果共通点が増え、似通った内容になってきたため皆が納得して使える「統合版」を作製してはどうかといった機運も出て来ています。

このようにして関係各所の皆さんが切磋琢磨して改善を重ね、より良い「地域包括ケア」が形成されるよう願ってやみません。